

エコバランスで事業全体の環境負荷を把握し、長期目標や環境行動計画の設定に活用しています。

リコーグループは、環境影響の大きい工程から効果的に環境負荷を削減するために、「エコバランス*1」によって事業活動全体および工程別の環境負荷を把握しています。エコバランスは、「環境経営情報システム*2」で収集したデータをもとに、人間の健康への影響、資源の枯渇、生態系への影響など、事業活動から発生するすべての環境影響を、統合化分析手法*3によって数値化したものです。「エコバランス」により把握された「統合環境影響」の評価をもとに、「2010年長期環境目標*4」や「環境行動計画*5」の設定を行っています。

*1 企業が発生させる環境負荷を定量的に測定・把握・報告する手段として、環境負荷のインプット/アウトプットデータの一覧表を作成すること、または一覧表そのものの。

*2: 51ページ

*3 スウェーデン環境研究所が、製品のLCAを算出するために開発したEPS (Environmental Priority Strategies for Product Design) という手法を、エコバランスの算出に応用しました。EPSは、環境負荷が人間の健康、生態系、非生物資源、生物多様性に与える被害量を、統一指標ELU(Environmental Load Unit)を使って金銭換算する手法です。CO₂=0.108ELU/kg, NO_x=2.13ELU/kg, SO_x=3.27ELU/kg, BOD=0.002ELU/kgなどと指標化されています。

*4: 15ページ

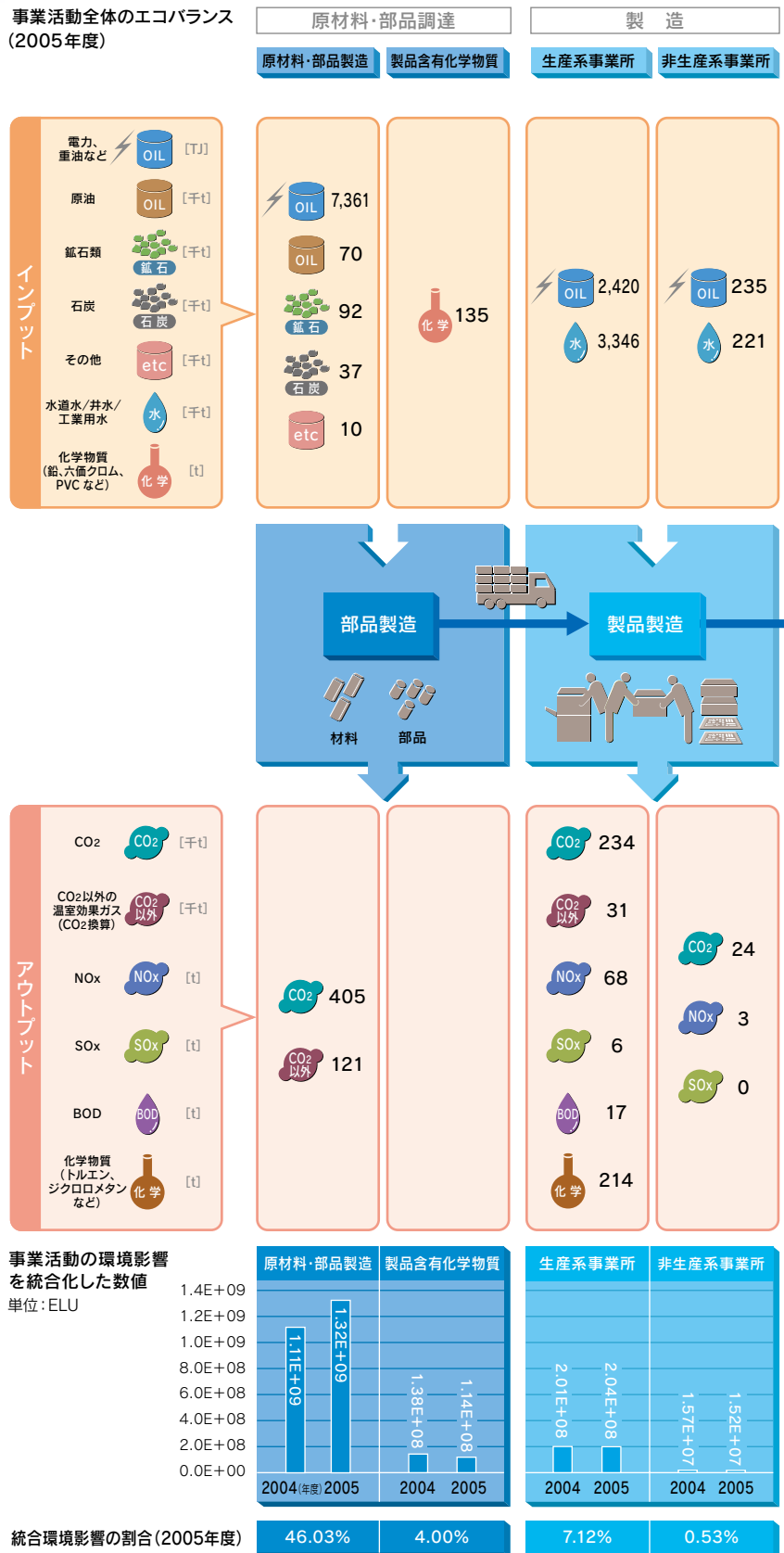
*5: 17ページ

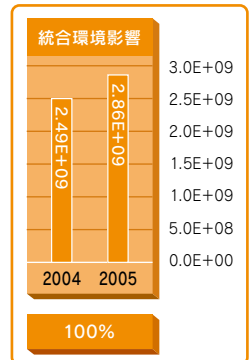
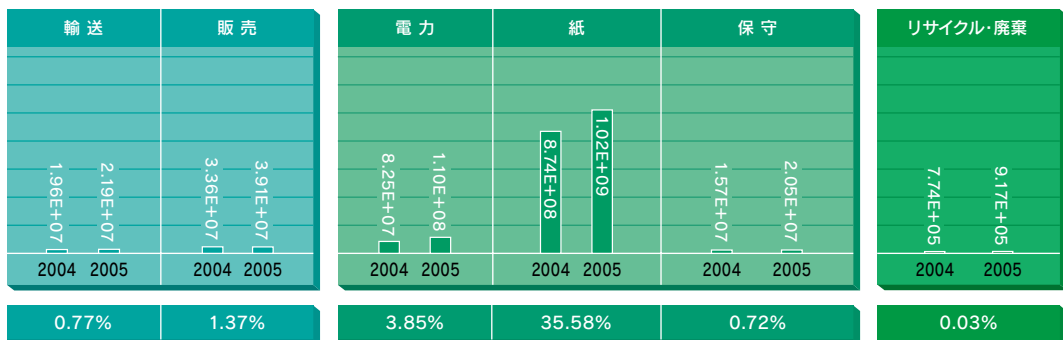
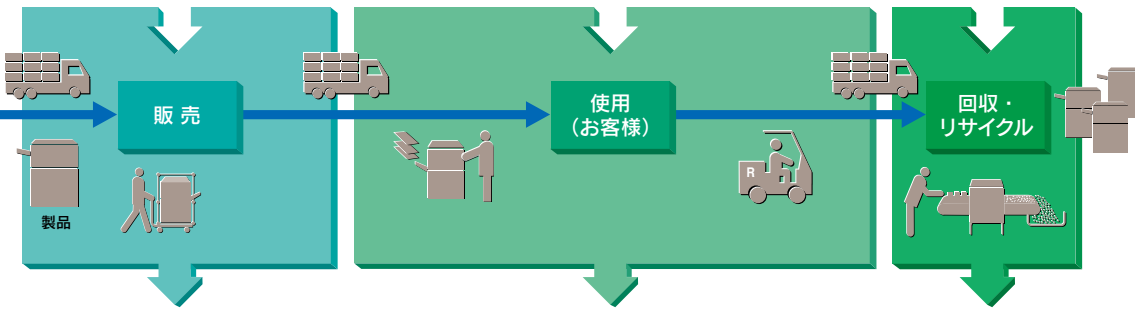
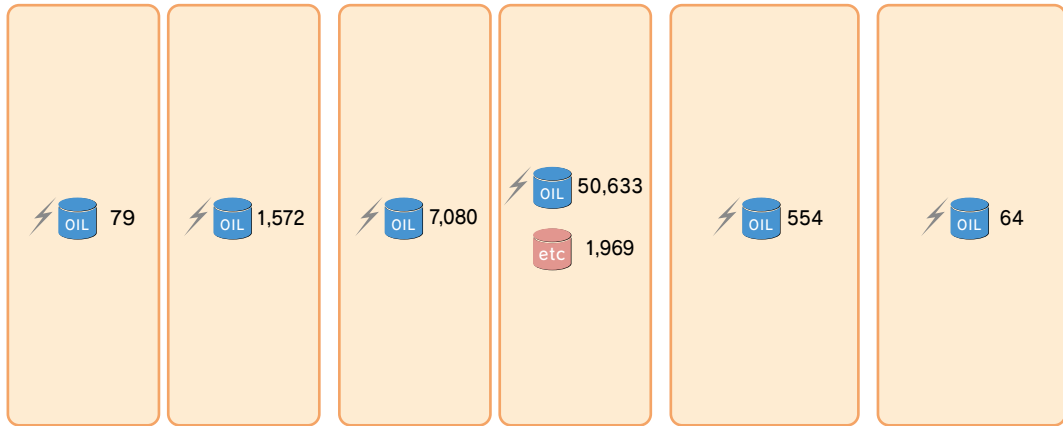
●2005年度のレビュー

事業の成長にともない、リコーグループ全体の統合環境影響の値は昨年度より増加しました。今年度の主な増加の理由は、カラー複写機の販売増加による資源投入とお客様における電力・紙消費にともなう環境影響が増加したことによります。一方、製品中の環境影響化学物質(鉛、六価クロムなど)の削減はより進み、また生産系事業所の統合環境影響の増加も抑制できています。今年度の製品関連のデータの収集範囲は昨年度と同様に国内外の画像製品事業と計量器事業となります。

※ BVQIの第三者検証の指摘により、2004年度の評価結果が修正されています。また、販売・保守工程の海外分の数値は推定値を使用しています。

事業活動全体のエコバランス (2005年度)





[E+n]は「×10ⁿ」を意味します。例) 1.45E+08=1.45×10⁸